

羅 針 盤			学 校 関 係 者 評 価			達 成 度		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	(○：学校評議員からいただいた指導助言等、◎：次年度に活かす内容や方向性)			①	②	総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	P T Aが関連する総会や事業に参加した保護者の80%以上が満足している。 ----- 学部・学級便りや連絡帳、ホームページ等から「お子さんの学習の様子がよく分かる」と保護者の80%以上が答えている。 ----- 学校行事や説明会等の学校公開で、保護者以外の来校者・参加者が年150人以上である。 ----- いじめの認知の仕方について保護者の90%以上が理解している。	○ 保護者に対して学校の取組をわかりやすく説明していくことが必要である。 ○ コロナ禍ということもあり、行事等が上手く開催できない中でできることを確実にやっていけばよいだろう。	◎ 引き続き保護者や第3者への説明を積極的に行っていく。その方法として、例えばWebページの充実による学校紹介、教育課程説明会の実施、保護者らへの積極的な授業参観の推奨などを行っていく。 ◎ 今年度末にICT環境の整備を終えるので、オンラインを活用した取組、例えば第3者への授業公開や関係者向けの授業の配信などを検討する。	A	A	A	
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	「ふじっこくらぶ」のスタッフ（本校職員・市教委指導主事）及び参加児保護者の90%以上が就学先の相談の場として有効であると答えている。					A	A
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	巡回相談後、手立てなど話し合った内容を校内に周知し、共通理解・指導を図っていると相談者の90%が答えている。	○ 現在も相談という意味ではセンター的機能を果たしているが、藤岡市のニーズはもっとあるので、様々な形で地域に藤岡特別支援学校がある良さをアピールしていただきたい。	◎ 専門アドバイザーを中心に据えつつ、積極的に他の教諭もセンター的機能を果たせるよう、組織改編を行う。	B	B	B	
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	90%の保護者が「個別の指導計画」の指導内容についてお子さんの実態に合ったものであると答えている。	○ 現時点で本人及び保護者のニーズに応えられていると言えるが、児童生徒のために正確なアセスメントを行い、より優れた実践力を教師が身に付けていく必要がある。 ○ 教師の専門性は授業をする力、子どもの状態を改善する力であるため、業務改善が叫ばれる中、お互いに教師が腕を磨いていけるような授業改善の取組に期待する。	◎ 更なる教師の専門性向上のため、校内研修を中心とした授業改善の取組を行う。 ◎ 次年度は各学部ごとに授業改善に係る研究を行う予定であるので、各部の研究授業を行い、何らかの形で外部に公開できるようにする。	A	A	A	
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	校内研修のテーマに沿った事例検討と研修内容の共有を月1回程度行う。					B	B
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症対策について学校からの情報提供や対応に保護者の90%以上が満足している。			A	A	A	
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	90%以上の職員が、災害時の対応マニュアルをわかり易いと答えている。					A	A
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	小学部から中学部、そして高等部へと一貫した指導計画を立案し、100%の教員が説明できる。	○ キャリア教育の具体的取組を各部で共有し、実践を積み重ねていく必要がある。 ○ 学部間の移行、社会への移行について、個別の目標を明確にしてスムーズにできるよう取り組んでもらいたい。	◎ 今年度より部主事の情報交換会を月に1回程度設けることで具体的に連携が取れてきているので、次年度はそれぞれの教育内容（教育課程や年間計画など）の一貫性が持てるようにしていく。	A	A	A	
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	「小学部→中学部、中学部→高等部、高等部→社会」の移行に向け、早期から本人及び保護者と協議する。					A	A